

令和 5 年度 シラバス (家庭)

学番 10 新潟県立新潟向陽高等学校

教科(科目)	家庭 (家庭基礎)	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	図説 家庭基礎 (実教出版)				
副教材等					

1 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する脂質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

- ・社会に参画し、家庭生活とともに身近な人々とよりよい人間関係を築くための「コミュニケーション力」を身につけることを目指します。
- ・学んだことを活用する力や、社会で自立的に生きる力を養い、資源や環境に配慮したライフスタイルについて考え、自ら作り出すことができる態度を育てます。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価 観 点	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
評価 方 法	必要な知識を習得し、理解できているかを、小テストや学期ごとの考査で確認する。 *基礎的・基本的な技術の習得と定着、その表現を、提出物や発表、生徒相互の評価、自己評価から判定する。	学習における課題に対して、どのように思考し、判断し、解決したかを、レポートやワークシートなどから評価する。	学習への関心・意欲を、授業や実験・実習への参加態度や感想から評価する。

5 学習計画

【評価の観点 a=知識・技能、b=思考・判断・表現 c=主体的に学習に取り組む態度】

月	単元名	時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点			評価方法
					a	b	c	
4	第1章 自分らしい生き方と家族	8		・自己分析をすることで自分らしい生き方について考える			c	・プリント
5	第2章 子どもとかわる	6		・人の発達において、保育や人とのかわりがいかに重要であるかを、事例をもとに考える		b	c	・プリント ・動画視聴 ・ロールプレイ ・調べ学習
6	第2章 子どもとかわる 第3章 高齢者とかわる	3 4	おもちゃ制作（コマ）	・子どもを生み育てる意義と人間形成の過程について考える ・高齢者とかわることの意義、高齢社会の現状と課題について学習する。	a		c	・プリント ・動画視聴 ・ロールプレイ ・調べ学習 ・介護実習・レポート
7	第4章 社会とかわる 第5章 食生活をつくる ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	4 2 1		・地域福祉の担い手を考え、助け合うことについて学ぶ ・食えることと健康のかわり、現代の食生活の変化と問題点について学習する ・夏休み課題に取り組む	a	b		・実験・レポート ・レポート
8	第5章 食生活をつくる	8		・健康な生活を営むためにどのような栄養素がどれくらい必要なのかを学ぶ	a	b		・調理実習・レポート
9	第5章 食生活をつくる	8		・調理の一連の流れを実践し、その理論やコツを学習する	a	b		・調理実習・レポート
10	第6章 衣生活をつくる	6		・衣類素材の性能や加工・改善について学習する。	a			・被服実験・レポート
11	第6章 衣生活をつくる 第7章 住生活をつくる	4 4	被服製作（エプロン）	・家庭での洗濯方法・保管の方法などについて学ぶ。 ・住まいの維持と管理の方法について学習する。 ・環境に配慮した住まいづくりについて学習する。	a		c	・被服実習 ・プリント ・動画視聴 ・ロールプレイ ・調べ学習
12	第7章 住生活をつくる 第8章 経済的に自立する	2		・住まいにおけるバリアフリーやユニバーサルデザインについて学習する。 ・現代の家計の特徴について学習する。	a	b		・プリント ・動画視聴 ・調べ学習
1	第8章 経済的に自立する	2	若者向け消費者教育用教材「Caution!」	・ライフイベントや生活のリスクなどに備えた、生涯を見通した経済計画と管理について学習する。		b	c	・プリント ・動画視聴 ・調べ学習
2	第9章 消費行動を考える	6	消費者アクションゲーム	・多様化している支払い方法や多重債務の予防と対処について学習する。	a		c	・プリント ・動画視聴 ・調べ学習
3	第9章 消費行動を考える	2		・持続可能な社会に向けて、自らの行動や選択を見つめなおす。		b	c	・プリント ・動画視聴 ・調べ学習

計 70 時間（50 分授業）

6 観点別評価を総括して評価する際の比率

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
40%	30%	30%

7 課題・提出物等

- ・ レポート, ワークシート, 実験・実習の記録など
- ・ 作品

8 担当者から一言

自立した家庭生活、社会生活が営めるように家庭科の基礎、基本的な知識・技能が習得できるように実習を多く取り入れています。しっかり学習し、自ら改善できることを考えそれを表現し、日常生活で実践できるようにしましょう。実習においても班員としっかりコミュニケーションを図り、自分の考えを伝えより充実した実習になるように積極的に活動しましょう。